

グループホーム 玄海の森

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		理念の紹介や説明は、毎回の会議で行なっているわけではない。今後、紹介・説明の頻度を増やし、周知に努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の方との行き来は前回から殆ど増えていない。今後、日常的にお付き合いをしていくことができるよう、再度働きかけを検討していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で地域高齢者等の暮らしに話が及び、その場で話し合いやアドバイスを行なうことはあるが、積極的な取り組みは行なっていない。		近隣の方がいつでも気軽に相談に立ち寄れるような環境づくりに努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をミーティングにて伝達し、職員全員で自己評価に取り組んだ。前回の評価結果についてはミーティング内で報告を行ない、全員で受け止めて業務見直しのきっかけとすることができた。		今後、まだ改善できていない項目について再度話し合い、検討していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者やサービスの状況、評価への取り組み状況や結果報告を行なっている。毎回頂くご意見や疑問は議事録に明記し、その取り組み状況や改善経過については次回以降の会議で報告を行なっている。		現在は管理者が主となり会議を開催しているため、今後職員が交代で出席できるよう検討していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外で継続的な関わりを持っているとはいえないが、課題や疑問等が生じた際には指導・助言をお願いしている。又、月に2度、介護訪問相談員の受け入れを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修やグループ内会議に参加した管理者が主となり、ホーム内にて研修会を実施している。現在、制度を活用されている入居者はいないが、希望があった際や必要性が感じられる入居者およびご家族等にはすぐにご案内・説明ができるよう、資料やパンフレットを揃えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、ホーム内にて研修会を実施している。又、日々の申し送りやミーティングで「入居者の心身状態にお変わりはないか」「業務やケアの中で虐待につながるような言動はみられていないか」を随時確認し、気を引き締めている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(または解除時)には十分なお時間を頂き、その内容や重要事項について一つ一つ説明を行なっている。不安や疑問点についてはその都度お尋ねし、理解・納得して頂いてから次に進むようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	余暇時や外食時等を利用し、馴染みの職員と1対1になれる機会を設けたり、匿名で意見することができるよう玄関ホールに意見箱を設置している。又、月に2回、介護訪問相談員を受け入れ、職員に気兼ねをせず不満や苦情を表すことのできる機会を作っている。		実際、意見をいただいたことはないが、意見が聞かれた際にはミーティングや運営推進会議等で報告を行ない、改善策の検討・対応を行なっていきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、個々の体調や生活、ホームにおける変化等をお手紙に記し、月々の写真と共にご家族へ送付している。又、病院受診を行なった際や金銭管理等でお知らせがある際は、その都度電話や面会時に報告を行なっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画説明時、運営推進会議等で、ご意見や苦情等はないかお尋ねするようにしている。直接言いつらい場合には、意見箱への投書や公的窓口も利用できることを入居時・必要時にお話している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の介護の中で、意見や提案はないか尋ねるようにしている。意見や提案が聞かれた際には、管理者・運営者等で検討し、反映させることができるよう前向きに検討している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者やご家族等の状況に変化が生じ、急遽ケアが必要となった場合には、連絡網を通じ職員の協力を得て勤務の調整を行なっている。又、外出や行事の際には前もって十分な人員を確保することができるように調整を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず、ユニット間の異動や新規職員の受け入れを行うことがあるが、その際には、入居者と新職員の初期関係が築けるまで馴染みの職員と対で行動することができるように配慮している。又、日常的にユニット間の交流を図り、馴染みの関係作りに努めている。		離職を最小限に抑えることができるように一層の努力を行なっていきたい。

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、性別・年齢不問としている。又、職員個人個人の能力を活かすことができるよう、月替わりで担当者を決め、行事の企画や内容案を出してもらっている。資格取得・キャリアアップのための研修等についても、出来る限り勤務調整の希望に応じている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>日頃から人権を尊重してケアを行なっているかどうか、確認し、指導・教育を行なっている。</p>		<p>人権教育や啓発活動に関する外部研修にも今後参加していきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時には「入社時研修」としてマニュアルや資料を用いた勉強会を実施している。又、職員の経験年数や段階を考慮し、それに応じた研修に参加することができるよう努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス事業者研修やグループホーム協議会主催の研修に参加した際には、他事業所の方と言葉を交わせるように心がけ、顔馴染みの関係作りに努めている。</p>		<p>今後もネットワーク研修等の研修会に参加し、他事業所の活動や情報収集、情報交換に努めていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>両ユニットの職員が一緒の部屋で休憩をとることにより、悩みの相談を行ったり、気分転換が図れるようにしている。又、勤務割りに関しては、月に1度は2連休が取れるように配慮し、リフレッシュを図っている。</p>		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自、スキルアップを目指し、資格取得に取り組んでいる。又、職員個々の努力や成果を認め、直接本人へ言葉をかけることで自信や向上心を高めることが出来るように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前には必ずご本人と面談を行い、言葉を交わす中で不安に感じていること・今求めていることを引き出していくことができるように努めている。又、どんな話であっても、まずは否定したり意見したりせず、傾聴するようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にご家族等と面談の時間を持つようにしている。これまでのご家族の思いを受け止め、現在困っていること・今後求めていることを引き出していくことができるよう話に傾聴している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族等が現在必要としているサービスを状況や会話から見極め、その状況に応じては他サービスの紹介を行ったり、在宅介護の相談・アドバイスを行なうことも頭においている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気や生活の様子を感じていただくため、サービス開始前に体験入居をお勧めしている。ホームでは、ご本人の性格や今までの生活リズム等に配慮し、ご家族と密に連携を図りながら、無理なく馴染んでいくことができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過す第二の家族として、調理や洗濯を一緒に行ったり、職員の知らない生活の智恵や歌を教えて頂いたり、と入居者個々の得意分野を生かした活動を見守り、支えあいの関係作りに努めている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身状態や日頃の様子等については、面会や電話の都度お伝えするようにしている。又、発生したニーズやリスクについては、ご家族と共に話し合い、ご本人を支えていくためのケアの方向性を検討している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族の話、生活暦等からその関係性を理解できるように努め、状況に応じては、家族間で想いがスムーズに伝わるよう、職員が橋渡し役になる等の支援を行なっている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたデイサービスや施設を訪問したり、近況報告のハガキを送れるよう提案・セッティングを行なったり、と馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の家事やレクリエーションの中で、何かを「共同」で製作したり楽しんだりする機会を提供し、一体感を感じられるきっかけ作りに努めている。又、職員が橋渡し役となり、他者同士の会話を支援している。		決して無理強いせず、ご本人の性格や心理等に配慮しながら進めていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、入居者と共に面会・訪問する等して、馴染みの関係を継続できるようにしている。又、ご家族には季節の挨拶状をお送りする等して関係を断ち切らないお付き合いをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時に希望・意向の確認を行なっている。又、普段の言動や表情等を記録しておき、何を望まれているか・どういうことに喜びを感じられているかを汲み取ることができるよう努めている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールとしてセンター方式を取り入れている。入居時およびアセスメント時に、ご本人・ご家族と確認しながらシートを完成させ、生活歴や今までの環境等について把握を行なっている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントツール・介護記録を利用し、客観的・総合的に暮らしの現状を把握することができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画立案時には、ご本人・ご家族の意向を尋ね、計画に盛り込んでいる。又、ミーティング時には職員に原案を提示し、意見やアイデアを求めて、より良い介護計画の作成に努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行なうと共に、病院退院後の再入居等で状態が変化した際やニーズの変更が求められる際には送球に見直しを行なっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の身体状況や精神面、言動等は具体的に記録に残し、職員間で共有している。又、日々かかわる中での気づき、ケアの失敗や成功例等を介護計画見直しの材料としている。		多くの記録が同一用紙に書かれているため、「精神面」「気付き」等、項目を個別に拾いにくい。今後、書類面の整備を図りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば、2階デイサービスの大浴場で入浴していただく・遠方からこられるご家族等にはホームに宿泊していただいてもよいこととお知らせする、等できる限り柔軟に対応できるよう心がけている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練時には、必要に応じて消防署の協力を依頼している。又、行事の際には小学校や児童クラブと行き来しあう協力体制がある。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実際に他サービスを利用されている方はいないが、意向や必要性があれば、他のケアマネジャーや他のサービス事業所と連携を図るようにしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護等を利用されている方はいないが、運営推進会議や研修等で包括支援センターの職員と関わる機会があり、必要に応じて協働できる体制を整えている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、可能であれば引き続き、馴染みの病院で診察を受けられるよう声かけを行なっている。又、医師へ報告しておきたいことや相談したいことがある際には、職員が受診に同席させていただいたり、情報提供書をお持ちする等して、かかりつけ医との関係を築いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタル面や認知症状に変化がみられる際には、かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医を紹介して頂いている。又、初回受診時には職員が同席し、状態の報告や相談を行なっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療に関する相談や疑問については日頃から、かかりつけ病院や関連施設の看護師とコミュニケーションがとれており、気軽に相談・アドバイスを受ける関係がある。		今後、更に密に関われる環境を整えていきたい。

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人・ご家族の同意を得て病院関係者にケア情報を提供し、出来る限りかわらないケアを受けることができるように配慮している。又、細めに面会に伺い、状態把握を行なうと共に、病院関係者やご家族からの情報交換に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、可能な限りホームでの生活が継続できるよう考えているが、明確な基準や方針は定めていない。又、終末期のあり方についても、現在のところ具体的な取り組みは行なっておらず、医療との連携も十分とはいえない。		ご本人・ご家族の希望や要望にできるだけ沿うことができるよう、かかりつけ医にアドバイスを頂きながら取り組んでいきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで「できること・できないこと」を明確にし、その上で希望・要望に沿えるよう、ご本人・ご家族と話し合いを行なっている。		今後、かかりつけ医を主軸にしたチームで、より良く関わっていくことができるように準備を行なっていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までに住み替えをされた方はいないが、居所住み替えの際は、新居所見学に同席させていただく等して、雰囲気や生活の様子等、ご本人に合う選択ができるように支援していく。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応については、日頃から敬いの念をもって接することができるように職員間で確認しあっている。又、個人情報の取扱いについては入居時に誓約書を交わし、書庫に施錠する等して情報の漏えい防止に努めている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	コミュニケーションをとる際には、入居者個々の「わかる力」にあわせ、短く簡潔に説明を行なっている。又、外出場所や買い物等で自己選択・決定できる機会を増やし、その答えはせかさずに待つようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決めており、ある程度流れには沿っているが、その日の体調や思いを考慮して入浴やレクリエーション・外出等を支援するようにしており、ご本人のペースで過ぎて頂けるよう配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時や外出時の衣類はご自分で選んで頂いたり、お化粧品を楽しむことができるようにセッティングを行なっている。又、理美容に関しては、希望時に訪問理美容サービスを利用することができ、馴染みの美容師さんに来ていただいている方もいる。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事メニューについてはグループ内の栄養士が作成しており、栄養バランスに優れている。食事は各自、ご自宅等で使い慣れた食器や好みの食器に盛るようにしており、個々の力に合わせて調理や盛りつけをお願いしている。又、月に1～2回は好きなものを作ったり、出前・外食を楽しむ機会を設けている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	過剰に摂取しすぎることのないよう、さりげなく声かけ・観察を行ないながら好みのおやつ・飲み物を購入、摂取して頂いている。又、行事の際には少量ずつアルコール類を用意している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、トイレへ行かれた都度記入を行なうことで個々の排泄パターンの把握に努めている。日中は全入居者がトイレにて排泄されており、排泄パターンに合わせた誘導を行なうことで、出来る限り排泄の失敗がないよう支援している。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後からの入浴となっているが、入浴されるかどうかは職員が決めてしまわず、お一人ひとりの意向を確認し対応している。又、希望者がいれば、同施設内の大浴場を利用することもできる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後や外出後等で眠気や倦怠感を感じられている際には、夜間の睡眠に影響を及ぼさない範囲で横になって頂いている。又、夜間の就寝時間については個人の生活習慣に合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や植物の世話、歌を教えるリーダー、等入居者ごとの得意分野を活かした役割やお手伝いをお願いしている。又、散歩や買い物の機会を作り、お誘いすることで楽しみごと・気晴らしのきっかけになるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理については困難である方が多く、同意の下に金庫でお預かりしている。外出や受診の支払い時には、ご自分でお金を取り出して頂けるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時や天候の良い日には買い物や散歩にお誘いしたり、玄関ポーチや中庭に椅子とテーブルを出してお茶をしたり、と外気に触れられる機会を作っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者からの具体的な希望は聞かれていないが、季節ごとに花見や外食・買い物等の計画を立て、楽しんで頂いている。又、お花見や外食ではご家族に参加していただく機会も作っている。		お一人お一人が行ってみたいと思っている場所や思い出の場所について、普段のコミュニケーションの中から引き出すことができるよう支援していきたい。

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される際やお手紙を頂いた際には、返信用のハガキを準備したり、いつでも電話が使えることをお伝えする等して、コミュニケーションが途切れないよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問してこられた方々が、ゆっくりとくつろいでお話できるよう、面会時間は定めず、居室や和室、ホール等で自由に過ごして頂けるよう声かけを行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内にて研修会を実施し、身体拘束の定義や身体拘束によって起こりうる弊害を理解している。又、言葉や心理的な拘束が行なわれていないか、日々介護の中でチェックし合っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることでの弊害については研修等で理解しており、居室を施錠することはない。又、玄関の鍵については、防犯・事故防止の観点から19:00以降に施錠するようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、個々の所在確認については、職員が声を掛け合って把握している。又、頻繁に玄関ホールへ出られる方等についても無理に引き止めることはせず、見守ったり付き添ったりするようにしている。夜間はご本人の了解を得て、1時間に1回の巡視を行なっている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意や危険を伴う物品(包丁や洗剤等)は入居者の目の届かないところで管理を行なっている。使用については、全てを制限することではなく、個々の状態に応じて、職員見守りの下使用していただく機会を持っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	管理者がリスクマネジメントに関する外部研修に参加し、伝達研修を行なうことで、入居者個々を知ること・生活パターンを把握すること、の重要性をスタッフ全員で理解している。又、事故が発生してしまった際には「ひやりはっと」を記入することで状況の把握に努め、原因や今後の予防策を話あっている。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の応急処置や対応方法についてはマニュアルを作成し、スタッフに配布している。又、ミーティング時に入居者個々の急変の可能性、起こりうる症状等について話し合い、対応の確認を行なっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署・設備点検会社の協力を得て消防・非難訓練を実施している。緊急時にはすぐに関連施設の協力が得られる体勢を整えている。		早めのスプリンクラー設置を検討している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族等と密に連絡を取り合い、心身の状態について報告を行なうと共に、起こりうるリスクについて説明を行なっている。又、できるだけ負担を感じさせないリスク軽減の方法についても話し合いの機会をもっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックとこまめな状態観察で体調変化の早期発見に努めている。又、変化時は申し送りや連絡ノートを通じ、職員全員が状態を把握、継続して観察や処置が行なえるように配慮している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は介護記録と共にファイルし、いつでも確認できるようにしている。又、効能や副作用についてはその都度、職員に申し送りし、服用開始後の状態の観察に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、個々の排便ペースを把握している。便秘予防については、水分や食物繊維を含む食物を多めに摂取して頂いたり、適度な運動を勧める等して、自然に排便できるよう努めているが、下剤を服用されている方は多い。		

グループホーム 玄海の森

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎を予防するためにも毎食後の口腔ケアを勧めている。介助が必要な方に関しては、ご本人がブラッシングされた後、不十分な箇所の介助を行ない、口腔内の清潔を保てるようにしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立については同グループの栄養士が作成しているため栄養バランスに優れている。又、食事の形態や量・代替品等は個々の状態に応じて検討・対応し、一日の水分量や食事摂取量についてもおおまかに把握して記録に残している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策についてのマニュアルを整備し、作業ごとの手洗い・消毒、うがいを徹底している。又、インフルエンザについては毎年ご本人・ご家族の同意を得て、入居者全員が予防接種を行なっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は毎日消毒(除菌・熱消毒)を行なっている。調理を担当する職員は事前に手洗い消毒を行なう・食事作り専用のエプロンを着用する、等衛生面に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ポーチにはベンチや季節の植物を配置し、親しみやすく訪問しやすい雰囲気作りに努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を快適に利用して頂くため、日差しの強い際にはよしずを立てかけたり、テレビや音楽の音が大きすぎないか、等配慮している。又、居間にはできるだけ季節の花や緑を絶やさないようにしている。		

グループホーム 玄海の森

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや和室があり、思い思いの場所で過ごしていただける。又、窓際や台所等、その方が「今」過ごしたい場所へ椅子をお持ちし過ごしていただけるよう配慮している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・カーテンは備え付けとなっているが、それ以外のもの(鏡台・机・座椅子等)はご自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂き、居心地よく安心できる空間作りを進めている。又、仏壇をお持込されている方もいる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムを備え付けており、掃除時や食後等にも随時換気を行なっている。室内の温度については、ホーム内に湿温度計を設置し、状況に応じて加湿器を使用したり、こまめな調整を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりが設置されており、バリアフリーとなっている。又、ホーム内は車椅子で生活しても不備が少なく、生活しやすい広さとなっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事や生活等、生活の場面では、個々の力に合わせた声かけやセッティングを行い、混乱や不安を招くことのないように配慮している。(動作の声かけは一つずつ行なう・バランスよく食事を摂ることができるよう細めに食器の位置を変える等)		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関ポーチにはベンチを設置、中庭にもウッドデッキが設置されており、自由に散歩や日光浴・夕涼み等が出来る。		

グループホーム 玄海の森

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者 ¹ と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々 ² の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 玄海の森

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム内に閉じこもってしまうことのないよう、できるだけ散歩や買い物にでかける機会を作っている。